

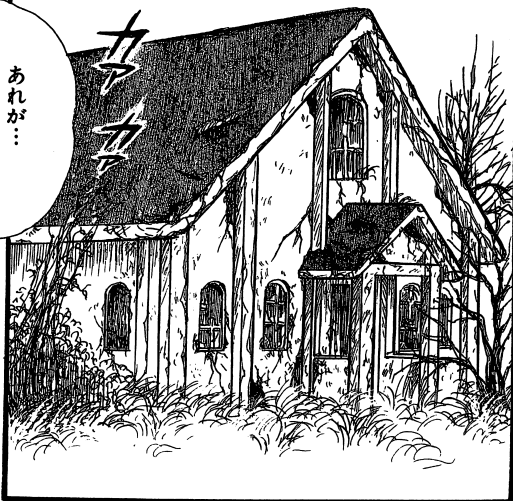
銀の鬼〈第十卷〉

茶木ひろみ



紫の少女



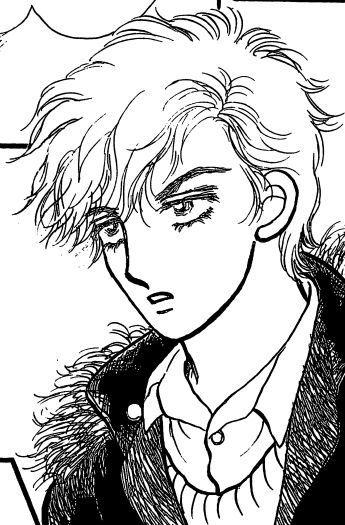


あれが…
殺人事件の
現場になった
という廃屋か

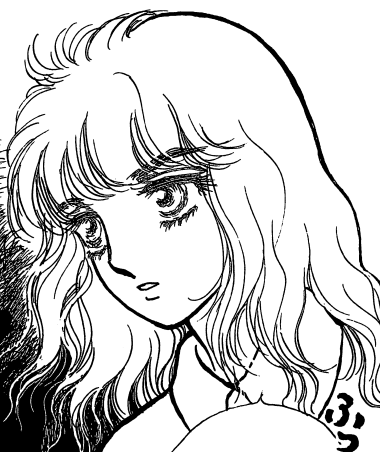
テレビで
見たのより
不気味だわ

全身を20か所
メッタ刺しで
殺された若い女…か

鬼でも
そんなことは
できないぞ

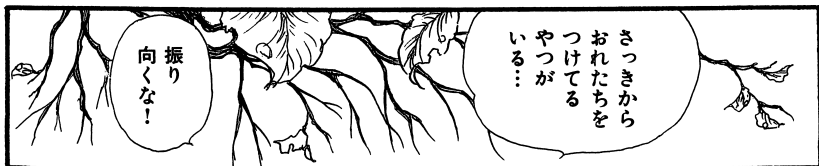


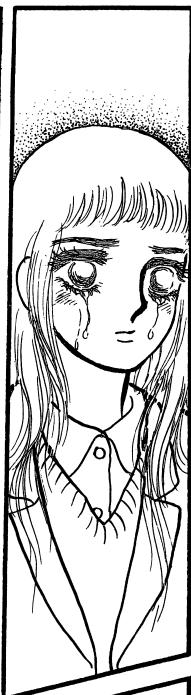
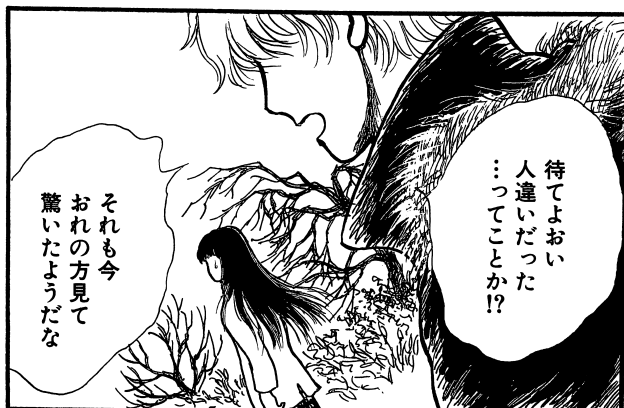
そうかあ？
たったの5か所
だったぞ

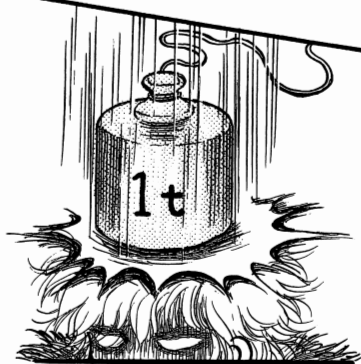
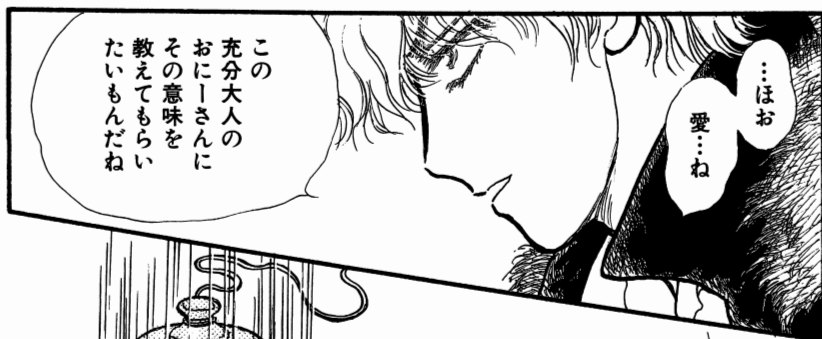
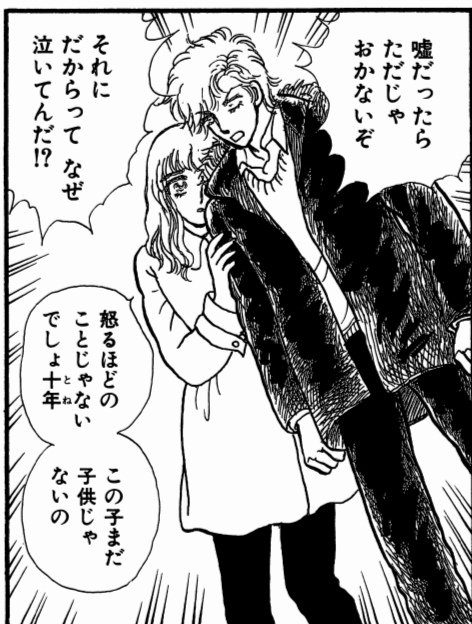


ふっ
この前の
『幻の男』への
やり方はそれ以上
だったと思うけど

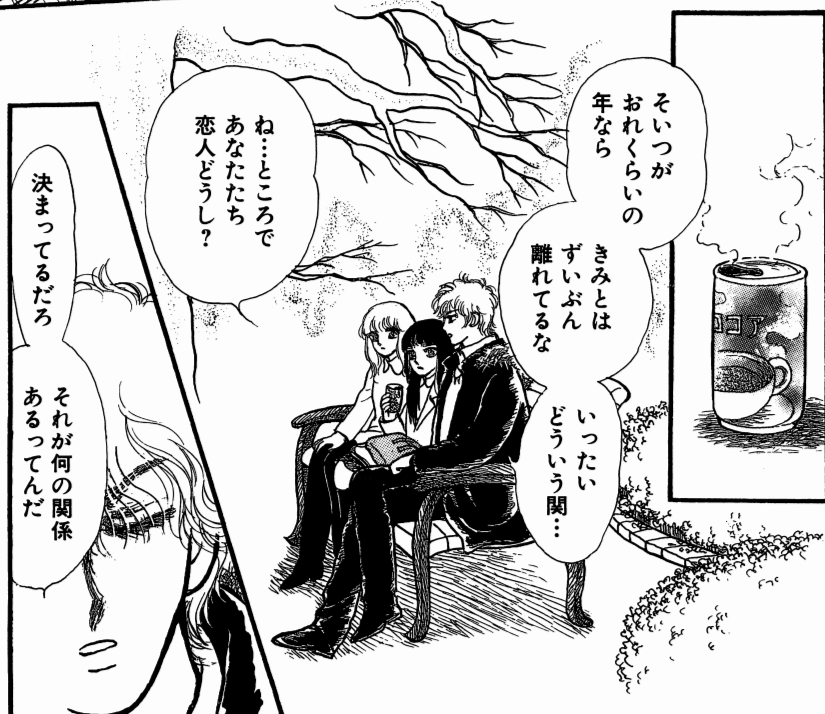
…しっ！

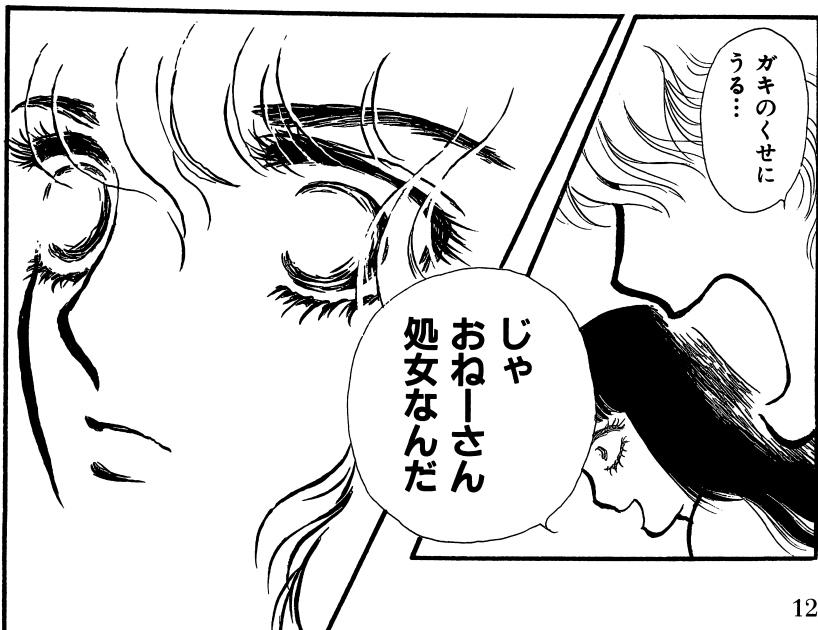
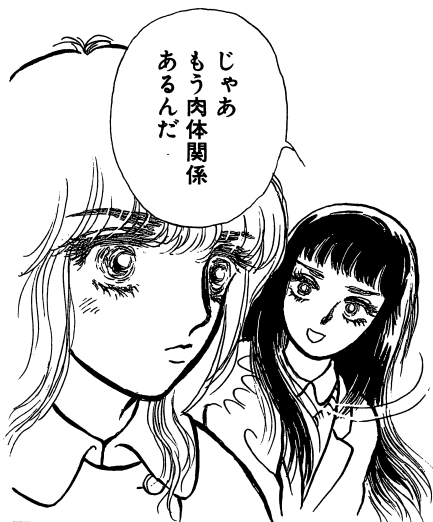


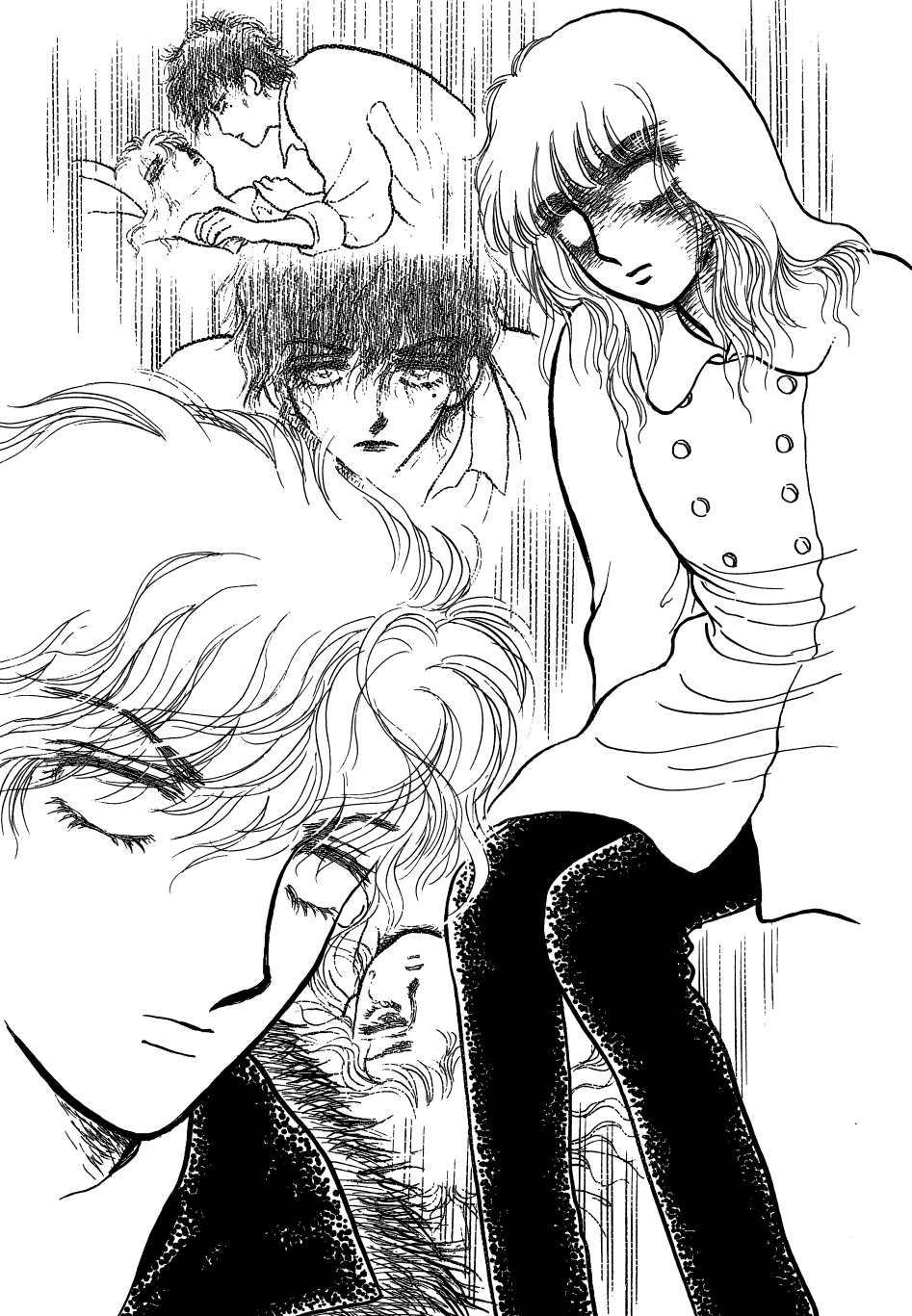


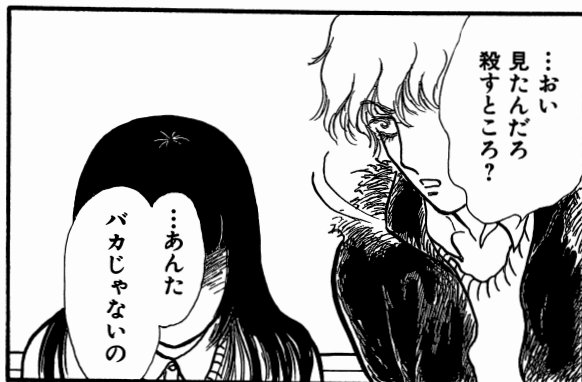
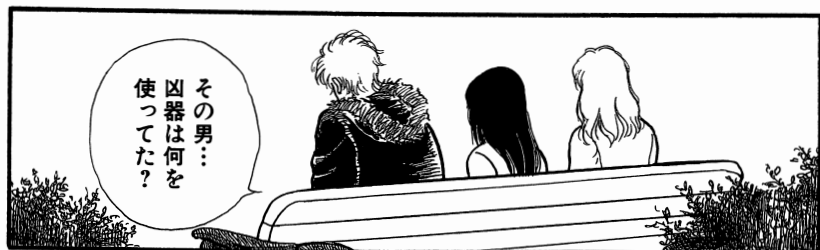


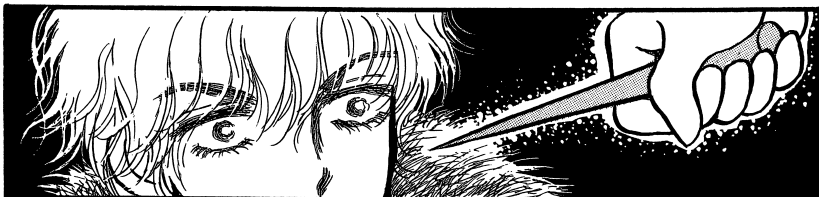
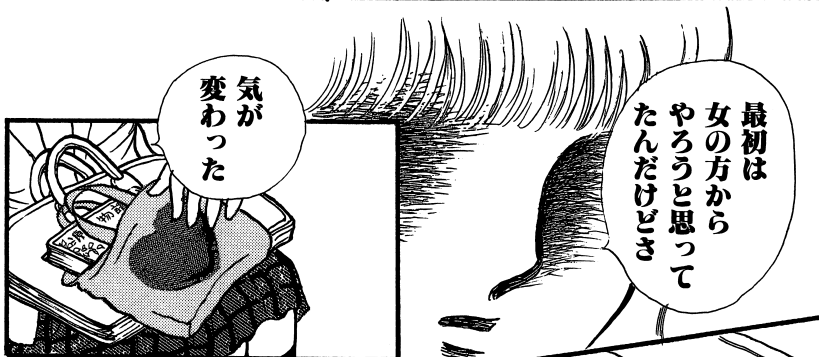
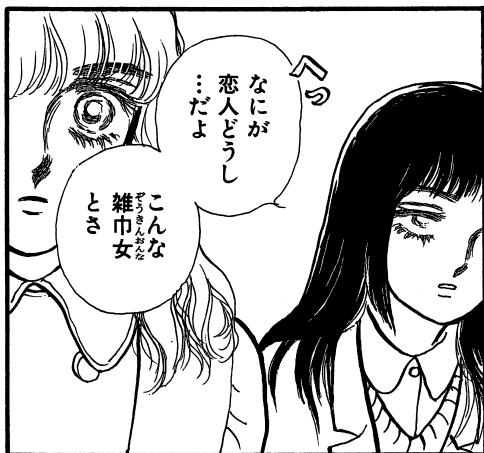




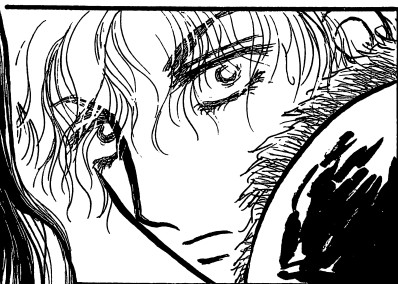
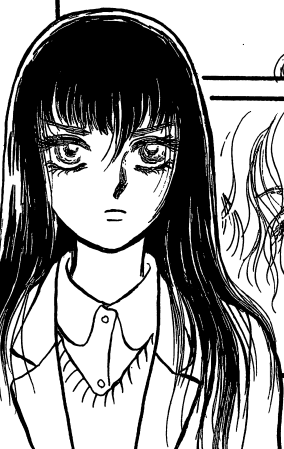
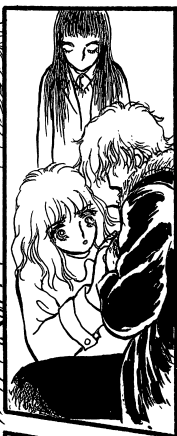




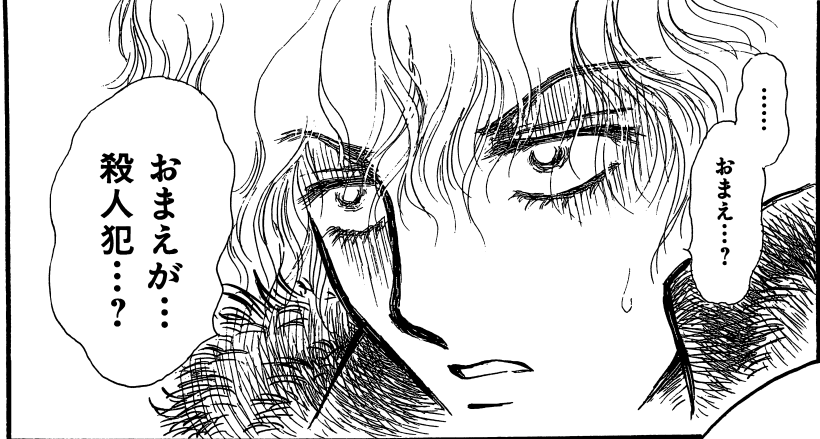






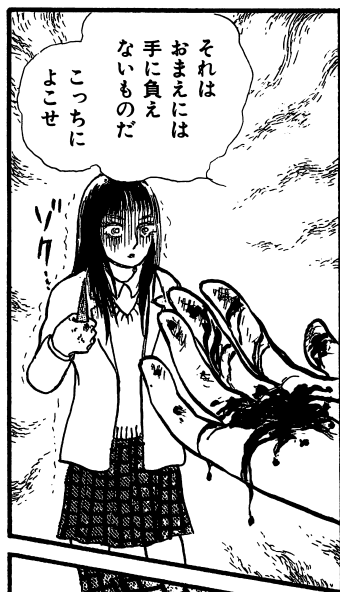


十年^とね
.....!

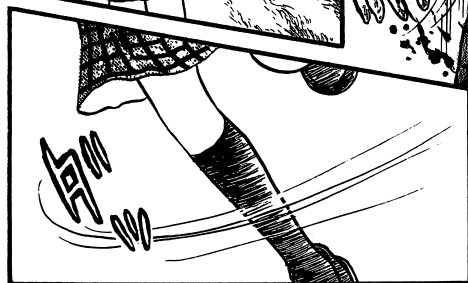


.....
おまえ……？

おまえが……
殺人犯……？



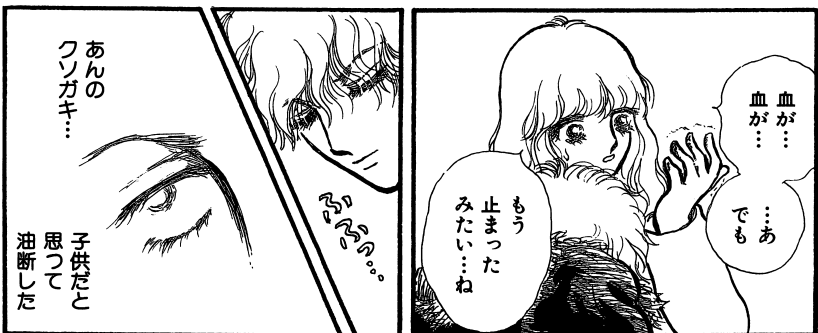
それは
おまえには
手に負え
ないものだ
こっちに
よこせ



じゃ……今の
話……全部
嘘だったのか……

油断させる
ための……？

あ……んた
いったい……

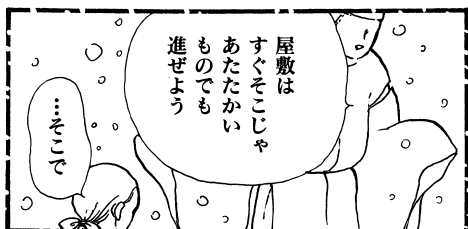
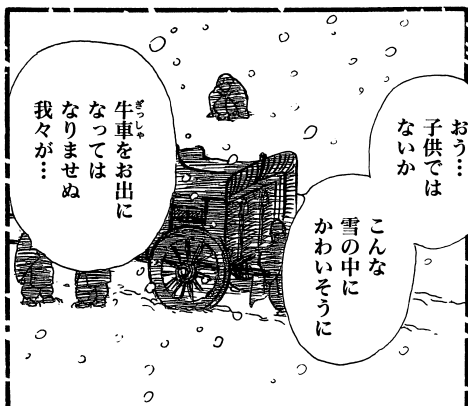


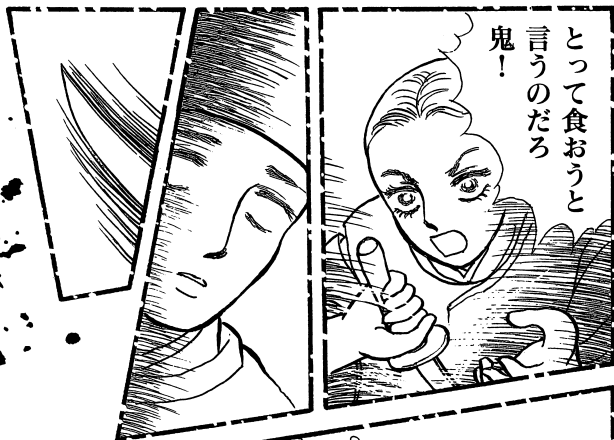
子供…

そう…

油断
してんだ

あの日の…



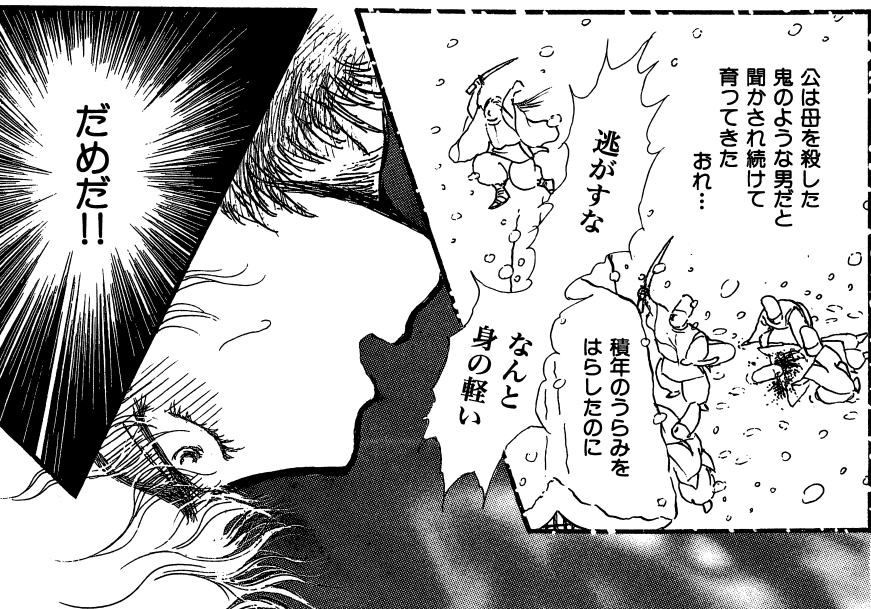


とって食おうと
言うのだろ
鬼！

あいつは
一瞬でも
おれに怒りを
向けるひまなく

さみしげな
目をしたまま
倒れていった

島影公
しまかげこう



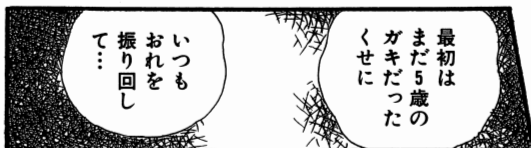
だめだ!!

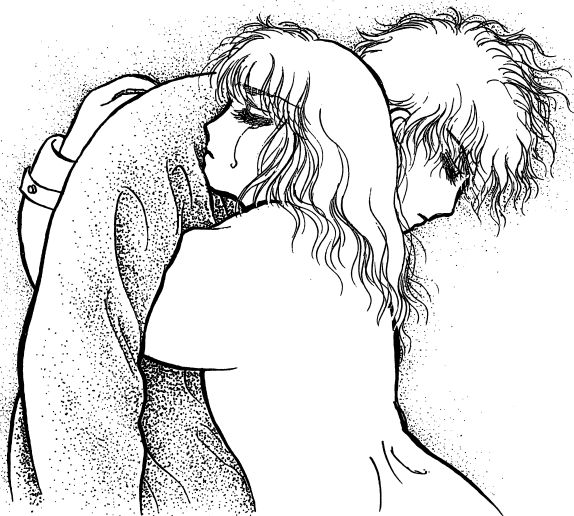
公は田を殺した
鬼のような男だと
聞かされ続けて
育つてきた
おれ！

逃がすな

積年のうらみを
はらしたのに
なんと
身の軽い

その先を…
思い出したら
だめだ……！





その先を
思い出し
たら...

あいつが
出てくる
.....



うっ
花形先輩!



まあ
近松さん!

いふん
くらぬた
64